

## 勿凝学問 374

政治的関心層の合理的無知がもたらした政治的帰結

正確な政策論は、政治論の必要条件

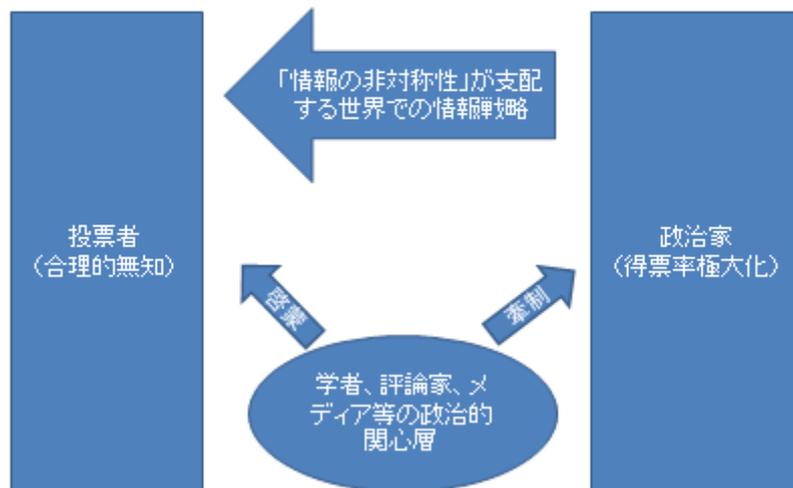
2011年11月27日

慶應義塾大学 商学部

教授 権丈善一

先日、あるところで話をしている、「しっかりした政治的関心層が、得票率極大化行動をとる政治家を牽制し、合理的無知な国民を啓蒙して、はじめて民主主義はどうかぎりぎり機能するわけで、日本は、政治的関心層の質が悪いから、こんなことになるんだよ……」ということを、9月に呼ばれた計画行政学会で話をしてきた」と言った。ということで、計画行政学会に提出した報告要旨を、一つの文章として、ここにアップしておきます。ちなみに、次のパワーポイントは、学会報告時に用いたものです。

### 民主主義における 政治的関心層の役割



#### 政治的関心層の合理的無知がもたらした政治的帰結

The Political Consequences of Rational Ignorance of Attentive Public

計画行政学会・公共選択学会連携セッション報告要旨

2011年9月11日

あと知恵と呼ばれるのは不本意なので、過去に書いた文章からの引用をしながら、報告要旨をまとめてみようと思う。2009年8月30日、政権交代が実現した総選挙の夜、次のように書き、翌日、政府の仕事に辞表を出す。

「辞表を出すときがようやくきたな。」

勿凝学問 249 [さて、ようやく終わったから、もういいだろう](#)

なぜ、政府の仕事に辞表を出したのか。理由は簡単である——政権交代後、私には次のような未来が見えていたからである。

「今後起こることは、政治センス(?)に充ち満ちた政治家たちのリーダーシップのもとで、万が一巧く展開するとなれば、冬の時代を生きる官僚をはじめとした人たちを血祭りに上げて国民の溜飲を下げてあげたり、血祭りをみて歓喜する国民をだまし討ちにして、マニフェストをうやむやにすることくらいかな。でも、血祭りやだまし討ちに協力することは僕の仕事ではないというだけの話である。」

勿凝学問 253 [血祭りやだまし討ちにかかわるのは僕の仕事ではないんだよ](#)

政権交代と同時に、その後の展開を的確に予測する雑誌記事「[メッキはすぐ剥げる！民主党のむだをなくせ](#)」〔『週刊東洋経済』2009年9月5日刊〕がでていることから理解できるように、民主党のマニフェストがどれほどデタラメかということは、少し考えれば分かる話であった。ところが、学者、評論家、メディアという日本の政治的関心層は、ほんのわずかな知的努力をすることもなく、国家運営の根幹に関わる財政や、高齢者所得の7割を占める巨大な生活インフラたる年金について、信じがたいほどに無知なままであり、民主党の確信犯的な公約違反の片棒を担ぎ、国運を傾ける行為に荷担してしまった。

公共選択論で使える概念に、政治家は次の選挙での当選を目標としてなりふり構わずに得票率極大化行動をとるという考えと、投票者が合理的に行動すれば公共政策に関して無知になるという合理的無知というものがある。政治的関心層が、投票者の合理的無知につけ込んだ政治家の得票率極大化行動を牽制してはじめて、民主主義はまともに機能するのであろうが、残念ながら、この国では政治的関心層その人たちが合理的無知に陥っていた。

この国の財政・社会保障政策を正常な軌道に乗せるには、民主党が確信犯的な公約違反を犯した罪を認めなければならないが、そうした豹変への国民や野党からの批判を抑え込むことができるほどの強い権力を彼らは持つてはいまい。選挙は、神聖な儀式であるがゆえに勝利した政党が統治の正当性を得るという民主主義の下で、そうした豹変が許されるはずもなく、その厚顔を許すこと自体が、選挙の神聖さへの冒瀆であるように思える。あってはならない政治手法での政権交代を経験した日本は、今、その後遺症に苦しんでいる。

次も、当日使ったパワーポイント。

## 2009年政権交代から得られたもの

- バカな野党がいなくなったこと
  - [勿凝学問273 2008年新春に予測した三つ巴の論戦、その後——大皇誕生日の講演での、「選挙権を国に返上する権利を認めてもらいたい」の意味](#)
- 「ウソはついた者勝ち」という、民主主義版「勝てば官軍」を、子供から政治家までを相手に、広く国民に示してくれたこと
- ついでに言えば、「日本の政治的関心層のレベルは低いから簡単にダマせる、まして普通の国民は・・・」「ウソをついても政治家は偽証罪を問われないどころか、社会から何ら罰せられることもない」ということを、子供たちをはじめとした国民に教えてくれたことかな

## 政策論と政治論

- 「政策論というのは細部への知識と洞察が生命線なのであり、制度への細部の知識と洞察が、思考の礎となって思想のブレを抑える働きもするわけである」
  - 権丈「[政策技術学としての経済学を求めて——分配、再分配問題を扱う研究者が見てきた世界](#)」  
『atプラス』2009年8月号
- 正確な政策論は政治論の必要条件。もし、必要条件を満たさぬ政治論が展開されれば・・・

## 正確な政策論は政治論の必要条件

- 僕の 仕事と重なる政治学者ってのは、面白いほどに制度の細部ってのを知らないね。僕の考え方は、年金にしろ医療・介護にしろ、税・財政にしろ、あるべき社会保障制度の細部、各論をつめて、その制度を実現するための政治はいかにあるべきかという、いわば細部を積み上げて政治を語るという論法。この時、あるべき制度の設計ができない人たちの論ってのは、だいたいいつも邪魔。
- ...
- 君ら政治学科の学生は、しっかりとした制度設計、政策評価ができるような訓練をしておいてくれ。年金の保険方式、租税方式の根本的な相違点や高齢者医療制度をめぐる本質的な問題点も分からないままに――特に制度も理解しないままに、社会保障をめぐる政局を論じる政治学者や政治部の記者などにならないようによく頼むよ。迷惑なだけだ、知名度の高い大衆ってのは。
  - 勿凝学問253 [血祭りやだまし討ちにかかわるのは僕の仕事ではないんだよ――それが僕と政治学者の違いかな](#) (2009年10月22日)